

整形外科における 静脈血栓塞栓症対策 update

静脈血栓塞栓症（venous thromboembolism；VTE）は整形外科において最も重要な合併症の一つです。VTEは術後高頻度に発生し、血栓が肺に詰まると肺血栓塞栓症（pulmonary thromboembolism；PTE）を起こし、頻度は少ないものの突然死を起こします。VTEは臨床症状が乏しく早期診断が困難であること、VTEから続発するPTEは発症した場合の死亡率が高いこと、本症の予防は費用対効果に優れること、などの理由から発症予防に重点を置かざるを得ないのが現状です。

2008年に日本整形外科学会から発行された『日本整形外科学会静脈血栓塞栓症予防ガイドライン』は無症候性を含むすべてのVTEが対象でした。その後VTEに関するエビデンスの蓄積や新たな予防薬の開発、さらには患者にとって重要な結果とは無症候性VTEではなく、症候性VTEおよび致死性PTEと出血合併症であることから、2017年に予防の対象を症候性VTEに変更し『日本整形外科学会 症候性静脈血栓塞栓症予防ガイドライン 2017』が発行されました。

本企画では各分野のエキスパートの先生にVTE予防の新しい情報をご執筆いただきました。総論として近畿大学病院の井上紳司先生にはVTEの病因・病態と予防について述べていただきました。横浜市立大学の手塚太郎先生にはVTE予防と最近の動向に関して述べていただきました。各論として熊本中央病院の阿部靖之先生には股関節骨折手術の実臨床におけるVTE対策、愛媛大学の今井 浩先生には人工股関節置換術におけるVTE対策について述べていただきました。日本医科大学の大島康史先生には人工膝関節置換術における予防対策、東京女子医科大学の伊藤淳哉先生には膝周辺骨切り術における対策の実際について、東京医科歯科大学医学部附属病院の大原敏之先生には膝関節鏡視下手術における対策について述べていただきました。日本医科大学付属病院の原 義明先生には重度外傷、特に骨盤骨折と多発外傷における対策について、通常の予定手術とは違い凝固線溶系が破綻しているという観点から予防の特殊性を含めて述べていただきました。獨協医科大学の森平 泰先生には脊椎手術と脊髄損傷における対策を述べていただきました。

本特集には日常診療に直接役立つ情報が満載されております。皆様には熟読され、明日からの診療に少しでもお役に立てれば幸いです。

（眞島任史）